

■ 同じ時間・同じ場所・同じ空気 ■

春らしく過ごしやすい日が続いている。湿度も低く、窓からの薰風が肌に心地いい。校舎前の樹木は、好天の下で、柔らかな新緑の色を日々深めている。蒸し暑さがやって来るまでのしぶしの快適を全身で味わっておきたい。

県高校総体・総文へ出場する生徒に対する壮行式は、圧巻だった。吹奏楽部の演奏に合わせて選手・参加者が入場し、壇上とその下に整列する。激励の言葉、応援団の音頭による全校応援があり、各部の代表が決意を述べた。全校生徒を一堂に会させたので、校歌は演奏にとどめ、応援は短めだったが、それでも学校としての一体感があってよかった。



ふと、啓泉講堂に全校生徒を入れての行事は、いつから行っていないのだろうかと頭を巡らせる。思い返せば、令和2(2020)年2月終わりの全国一斉休校以来である。だから、3年生にとっても初めてということになる。

一昨年は、総体・総文自体が中止となった。昨年は、まん延防止等重点措置の中、事前に録画した動画を編集し各教室に配信した。精一杯のことをしたとはいえ、画面越しでは、臨場感や仲間感、盛り上がりは生まれづらい。どこか味気なかった。

ある大学教授が、アイドルグループの大規模ライブについて、学生に訊ねた時のことを書いていた。「最後部からだと、アイドルの顔もほとんど見えないのではないか」との教授の疑問に、学生は「同じ時間に同じ場所にいて、同じ空気を感じられるからいいんです」と返したという。

学校にも、まさに「同じ時間・同じ場所・同じ空気」を共有できるというよさがある。そのよさが少しでも伝わり、小さくても心が共鳴してくれたのならうれしい。

さて、このところ、社会は元に戻ろうとしているように感じている。ワクチンの効力か、オミクロン株の弱毒化か、感染者数は高止まりしているのに、病床使用率や重傷病床使用率はともに低い。最近では、特定の状況下でのマスクの不要論も散見される。

とはいって、県内では日に500~600人程度の感染者が報告されている。しかも、感染経路不明者が多数を占める。この先、感染者または濃厚接触者となれば、参加できなくなることに直結するだろう。そうなれば本番で、一緒に練習してきた仲間たちと、「同じ時間に同じ場所にいて、同じ空気を感じる」ことはできなくなってしまう。

様々な事が平時に近づこうとしている。こんな時だからこそ、油断することなく要所を押さえた感染対策をする。それが肝要である。